

学会トピックス

日本医工学治療学会第22回学術大会報告

佐藤 隆

(医)偕行会名古屋共立病院シャント・アミロイドーシス治療センター

日本医工学治療学会第22回学術大会は2006年4月22日から23日の2日間にわたり福岡国際会議場を主会場として開催された。大会長は医療法人天神会の古賀伸彦理事長であり、本大会と並行して九州HDF検討会をはじめ、呼吸療法セミナー、CAPDセミナー、感染症セミナー、フットケアセミナー、メンテナンスセミナーなど多くのセミナーと教育セッションや市民公開講座など、広く医工学治療への関心を深められるような内容が企画されていた。大会開催前日の21日には“未来予測にみられる医工学の展開”と題して渥美和彦東京大学名誉教授の大会記念講演が行われ、本邦における保険・医療・福祉に関する周辺技術の中期・長期的傾向を予測した場合、増加するものはエレクトロニクス、環境、資源、エネルギー、ナノテクノロジーであることや日本の得意・不得意分野を踏まえた上で医工学がなすべき研究や活動についての方向性・展望が論じられた。翌22日より8会場にわたり教育講演、シンポジウム、各セミナー、一般演題が一斉に開始されたが、その演題数は特別講演7演題、教育講演11演題、シンポジウム10セッション(48演題)、ワークショップ6セッション(21演題)、一般演題82演題にのぼり、医工学治療の基礎から未来を見据えた幅広く多岐にわたる内容となっていた。

大会長講演は古賀伸彦理事長が長年、携われてこられた血液透析やアフェリシス治療分野における超音波・CT・MRIなど画像診断の臨床的有用性と技術的進歩、将来的展望についての講演が行われた。招請講演はTaipei City Hospitalの楊芝青教授が“Electrolyte Reduced Water for Hemodialysis”と題して血液透析における電解還元水の抗酸化作用やそれに伴う臨床効果について講演された。またUCSD School of Medicine: David M. Burns教授の特別講演は“Japanese Cigarettes: Does their engineering

make them safer?”と題し、日本人男性の喫煙率が高いにも関わらず肺がん死亡率が低い原因にチャコールフィルター普及率が関与しているのかについて言及し、日本製タバコの安全性向上のための技術的改良によるものではなく、タバコ消費量が増加する時期など歴史的な喫煙習慣の違いによるものとし、日本における若年齢層の肺がん死亡率が急激に増加していることを問題点として指摘された。

本学会の特徴は心血管系分野から各種体外循環療法、再生医療や医療技術・経済に至るまで、様々な分野の演題が集められたこと、また参加者も医療関係者のみならず学生、一般の方々まで広く門戸が開かれたことである。一般参加者を対象とした市民公開講座①では聖マリアンナ医科大学・箕輪良行先生による“エーイーディーは医療機器ではありません”と題してAED(automated external defibrillator)の有用性や問題点について、名古屋で開催された愛地球博の事例(会期中2200万人の入場者中5人の心停止に対しAEDが使用され4人が救命された)を含め講演がなされた。また同じく市民公開講座②では“電磁波と医療のかかわり”と題して大宮医師会市民病院・中島博先生、日本メドトロニック株式会社・豊島健氏により植え込み型デバイス、特にペースメーカーの電磁波対策等について判りやすい内容の講演がなされた。その他、各種セミナーを含め、本大会では1500名以上の参加者があったことを後日、大会関係者からおききした。このことは大会長や運営に携わられたスタッフの企画力と尽力によるものであろう。

今回、学術講演以外にも“からくり儀右衛門”の名で知られる田中久重のからくり人形が展示・実演されていた。田中久重は久留米市の生まれであり、“万年時計”や“蒸気機関”・“蒸気船”の製造に成功し、現在の「東芝」の前身を築き上げた“東洋のエジソン”



写真1 挨拶される古賀伸彦先生

と称される人物である。彼の言葉に“知識は失敗より学ぶ。事を成就するには志があり、忍耐があり、勇気があり、失敗があり、その後に成就があるのである”というものがある。この言葉は医工学の分野に従事するわれわれにとっても、当てはまることかも知れない。発明は技術的進歩であり、それを裏づけるものは日々の試行錯誤であろう。このような企画をされた古賀先生の胸中を推察するに“久重スピリット”を伝えたいとの意図があったのかもしれない。個人的なことではあ

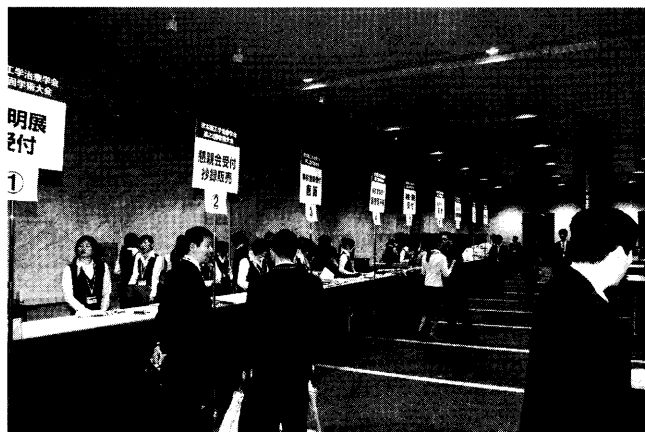


写真2 会場受付の様子

るが、小生が透析医療、体外循環療法の世界に入るきっかけを与えていただいたのが久留米市古賀病院であり、現在の基礎を教えていただいた古賀先生に改めて感謝する次第である。

今後、第27回日本アフェレシス学会学術大会（ISFA/WAA 共同開催）は昭和大学・秋澤忠男教授を大会長に横浜で、第28回学術大会は古賀伸彦先生を大会長に久留米で開催される予定となっており、アフェレシス学会会員の積極的な参加を期待したい。